

御所野縄文博物館



3 御所野遺跡

約5,000～4,200年前(縄文時代中期)のムラの跡。2021(令和3)年7月に「北海道・北東北の縄文遺跡群」のひとつとして世界文化遺産登録が決定しました。遺跡の周辺には豊かな自然環境も広がっており、縄文時代の集落のようすを実感できる遺跡です。発掘調査で明らかとなった土屋根の竪穴建物を復元しているほか、博物館で展示している出土遺物からは、縄文時代の御所野ムラの生活のようすを知ることができます。

17 二戸地方の漆蝋関係資料

「漆蝋」とは、漆の裏から搾り取った蝋のことで、蝋燭の原料などとして使われ、江戸時代の盛岡藩の重要な産物となっていました。二戸地方の漆蝋の生産過程などを考察する上で貴重な資料です。

38 櫛目波状文双耳壺

西方寺毘沙門堂の裏山の尾根頂部に南北2基の円形の塚があり、そこから出土したとされています。この塚は後塚で、壺は経筒として使用されていたものと考えられます。

美術工芸品

13 宮田宝篋印塔

岩手県内では唯一、年号がある中世の宝篋印塔です。石塔の基礎には1398(応永5)年、二親、兒5人、亡妻、亡母3人の供養のために建立したことが記されています。

25 神帯馬場宝篋印塔

26 地戸平宝篋印塔

27 小井田宝篋印塔

28 大観森宝篋印塔

29 光相寺宝篋印塔

30 広全寺宝篋印塔

31 出々町宝篋印塔

32 紫雲堂宝篋印塔

33 小性宝篋印塔

34 上里宝篋印塔

35 龍ノ木宝篋印塔

36 半在家五輪塔

25～35 宝篋印塔

36 五輪塔

史 跡

4 奥州街道

山あいを通る7カ所の道(延長8.86km)と4カ所の一里塚(波打峠、川底、旧中山、御堂・馬羽松)が史跡に指定されています。川底一里塚から高麗敷集落へ上り下りを繰り返す山道など、一戸町に残る奥州街道は景観がよく保たれており、往時のたたずまいを感じることができます。

16 巡礼納札(鳥越観音)

鳥越山山頂付近の岩屋に造られた鳥越観音は、807(大同2)年に慈覺大師が開基したと伝えられています。中世になると、糠部三十三観音巡礼の札所とされ、巡礼納札は、この巡礼を始めた観光上人が1512(永正9)年に納めたものです。

20 小紫一里塚

火行から小紫へ至る奥州街道のうち、火行寄りの坂は「ヨノ坂」と呼ばれています。この坂を約1.3km下った道の西側に、一里塚が1基残されています。

53 火行墳墓

径8.4m×7.8m、高さ0.7mの塚です。1983(昭和58)年に行われた発掘調査では、火葬された人骨と2枚の古銭が出土し、中世の墳墓であることが明らかとなりました。

24 木造阿彌陀三尊立像

中央に阿彌陀如来、右側に観音菩薩、左側に勢至菩薩を配した三尊像です。三尊は背面に銘銘があり、甲斐国の全正坊が1601(慶長6)年に鳥海の金富地区に立ち寄った際に製作したとあります。銘銘のある仏像としては岩手県北地域で最古の仏像です。

56 姉帯城跡

中世南部氏の一族である姉帯氏の居館跡です。馬淵川北側の断崖の上につくられた典型的な山城です。戦国時代末期の南部家の領主をめぐる争いによる合戦(戸一揆)が行われた場所です。1996(平成8)年に行われた発掘調査では、その戦いを伝える建物跡や遺物などが見つかっています。

5 男神岩・女神岩・鳥越山

馬淵川と安比川の合流地点周辺では、川の両側から迫る、断崖や深溝などから形成される美しい渓谷地形がみられます。渓谷の北側には、男神岩と女神岩が高くそびえ立ち、対岸には鳥越山がなだらかな姿を見せて広がっています。

11 時前遺跡出土品

馬淵川沿いに位置する時前遺跡(縄文時代晩期)から出土した遺物のうち、土器や土製品など253点が指定されています。いずれも精巧につくられ、美観的に優れたものが多く、なかでも「渦曲り土器」は、縄文文化を代表する遺物としても有名です。

15 雀紋印の馬印

一戸町を含む馬淵川流域の旧糠部郡は、馬産地として知られていました。1986(昭和61)年に行われた一戸城跡の発掘調査では、15～16世紀のものと考えられる馬印2点が出土。糠部地方の馬産を示す『馬焼印図』には、一戸七カ村産の馬の右に雀印の烙印がされていたことが記されています。

地質・植物

6 根反の大珪化木

珪化木とは、火山灰などに含まれる珪酸分が地下水に溶け、樹木の内部にしみこんでできた木の化石のことです。なかでも「根反の大珪化木」は、直径2m、高さ6.4mの日本最大級の直立する珪化木です。

9 姉帯・小鳥谷・根反の珪化木地帯

姉帯地区や小鳥谷地区の馬淵川流域や根反川流域では、約1,700年前に起きた環境変動によって埋没し、形成された珪化木が露出しています。

11 平根のイヌブナ自然林

イヌブナの北限地域の中でも最も規模が大きく、典型的な森林が良好に残っている地域です。イヌブナは、根元から複数の幹が伸びる「株立ち」が特徴です。

7 藤島のフジ

根回り3.3m、高さ21mあり、ツルが付近の樹頭に達する日本最大級のフジ。小鳥谷地区で長い間育まれてきた歴史があります。例年5月下旬ごろには、淡紫色の花を咲かせ、見ごろの時期を迎えます。

8 実相寺のイチョウ

樹齢約280年、樹高は約25mあります。秋には葉が美しい黄色に色づき、見事な紅葉が見られます。雄木でありながら枝の一部に雌花が付き、実を結ぶ珍しいイチョウです。

10 浪打峠の交叉層

交叉層とは、流動する多方向からの流水によって形成された地層のことです。切り通しの峠道の両側には、ホタテ貝などの化石を含む地層が美しい模様模様を見せています。別名「末の松山」とも呼ばれています。

12 旧村館家住宅

旧村館家住宅の母屋は、南口16間5尺(29.9m)、奥行9間(16.4m)の茅葺き等の大規模な建物で、江戸時代の終わりのころ、1862(文久2)年に建てられたと伝えられています。村館家は、生業や信仰、年中行事など、地区の中心的な役割を担ってきました。生業は時代により、林業、農業、漆業生産、牛馬生産、木炭生産、養蚕などが行われていました。

12 萬代館

1909(明治42)年、蔵を改造して人形芝居小屋として創業し、大正時代から映画の上映が始められました。現在の建物は1956(昭和31)年に建設された、昭和30年代の映画館ブームを代表する建物です。

21 阿彌陀如来坐像

22 毘沙門天立像

23 地藏菩薩立像

建造物

14 西方寺毘沙門堂

もともと西方寺は茂谷山の中腹にあり、34あるお堂のうちひとつが毘沙門堂だったといわれています。現在の毘沙門堂は、江戸時代初めの1663(寛文3)年に建てられたもので、棟札も残されています。

18 根反鹿踊り

岩手県北地方を代表する鹿踊りで、太鼓・ササの囃子方と踊り手が分かれている「幕踊り」に分類されます。2頭の雄鹿が1頭の雌鹿をめぐって争うさまを描いた勇壮な踊りです。小学生から高校生の若い世代が中心となり、勇壮な踊りを各地で披露しています。

19 一戸の山伏神楽

高麗敷神楽や中山神楽の源流は、上女鹿沢の三明院の山伏神楽と考えられています。高麗敷神楽は多数の演目があり、山伏神楽の古い形態を残しています。中山神楽は盛岡藩領を中心に広がる中山手の源流です。

51 女鹿神楽

数ある演目の中でも「若子舞」は、女鹿神楽が得意とする演目のひとつです。また、約70年ぶりに「笠松山」という演目を見事に復活させるなど、女鹿神楽は近年大奮闘しています。

52 田中新山社神楽

現在の田中新山社神楽は、2003(平成15)年に地元有志が「田中新山社神楽保存会」を結成し、復活させたものです。現在は演目の継承に意欲的に取り組んでいます。

61 姉帯鬼淵のセノキ

姉帯城跡対岸の若宮八幡社に囲む杉林の中に立っています。一般的にはハリギリとも呼ばれます。推定樹齢は400年で、これほどの大木になるものはごくまれです。

62 姉帯上里のカヤ

一時は樹勢が衰えていましたが、2008(平成20)年に周囲の環境を整えることで樹勢回復を図りました。現在では、次第に新しい枝が増え、葉量や収穫できる実の量も多くなりました。

58 宮古沢のアズマヒガンザクラ

鳥越観音の参道樹木のひとつです。根元周囲約5m、樹高16m、樹齢300年を超える。一戸町内では最も長寿なサクラです。

63 野尻の大イチイ

平糠川沿いの農家の軒先に立つ2本のイチイの木は、樹齢400年と推定されます。周辺の環境に制約されずに生育したと推測されており、これだけの古木は大変貴重です。

66 奥中山のクリ

推定樹齢100年以上の2本のクリの大木です。「三つ支の木」には神様が宿るから切ってはいけない」という地域の言い伝えから伐採されず、今日に至るまで大切に守られてきました。

67 佐藤家のイグネツル

家の敷地を囲む屋敷林。近くを流れる川と平行するよう11本の樹木が立ち並んでいます。家の庭に置かれた手水鉢に刻まれた年号から、江戸時代後期ごろに庭が造られ、木々も植えられたと考えられています。

49 小鳥谷七ツ踊り

七ツ踊りは神社祭礼の露払いをする芸能です。小鳥谷七ツ踊りは、行列踊り・輪踊り・礼舞(花舞)に分けられます。御小性神社や小鳥谷の八幡神社の祭礼など多くの場で披露されており、小鳥谷地域全体で春に後継者を育成していることも高く評価されています。

50 小友神楽

現在の小友神楽は、1987(昭和62)年ごろ、この地域の青年たちが復活させたものです。一戸町の神楽で盆舞があるのは小友神楽だけで、盆舞は小友神楽の代名詞となっています。

民俗芸能

18 根反鹿踊り

19 一戸の山伏神楽

51 女鹿神楽

52 田中新山社神楽